

令和3年度 事務事業点検評価報告書 【総括表】 (広陵町教育委員会)

<p><b>事業目標</b></p>	<p style="text-align: center;"><b>皆さんと共に「いい人づくり」 ～わかる・できる楽しさを子どもたちに～</b></p> <p>○自ら学び、基礎・基本の重視と個性を生かす教育の充実を図り、心豊かな人間の育成を目指す。</p> <p>○知・徳・体の調和のとれた自立した子どもの育成に努め、地域の一員であることを自覚し進んで社会に貢献できる人間の育成を目指す。</p> <p>○人間尊重の精神を培い、家庭や地域社会との連携を図り、地域の信頼と期待に応える教育行政を目指す。</p>
<p><b>事業方針</b></p>	<p>○総合教育会議の開催による町教育行政の推進と多方面での連携協力体制の構築</p> <p>○学校教育の充実を図るため、学習意欲の向上と基礎学力の定着を推進するとともにトイレの洋式化等、学校教育の環境整備を目指す。</p>

●教育総務課 ※社会情勢の影響により、やむを得ず事業実施できなかったものについては、自己評価結果を「－」とし、評価しないものとする。

<p>前年度の 成果と課題</p>	<p>本年度重点目標</p>	<p>具体的目標</p>	<p>総合評価</p>
<p>○総合教育会議開催による連携協力</p> <p>○教育振興基本計画等策定委員会開催による計画策定</p> <p>○小中学校の連携による教育の推進と児童生徒の学力向上</p> <p>○学校施設の環境改善</p>	<p>○総合教育会議の開催と町長部局及び多方面での連携協力体制の充実</p> <p>○平成29年3月策定の広陵町教育大綱の見直し</p> <p>○広陵町教育振興基本計画の策定</p> <p>○小中連携教育の推進と学力向上に向けた各校における取組の強化</p> <p>○各小学校・中学校のトイレ改修（洋式化・乾式化）工事の実施</p> <p>○G I G Aスクール構想実施に向けた校内ネットワーク環境整備及び充実を図るためICT支援員を導入</p> <p>○広陵西小学校増築等工事の実施</p>	<p>○町長部局と教育委員会事務局との連携協力による年3回程度の総合教育会議の開催と教育委員会各課の諸事業の検討と評価を目指す。</p> <p>○広陵町教育大綱については、時代の変化をとらえた内容となるよう見直しを行う。</p> <p>○広陵町教育振興基本計画については、国、県の上位計画を踏まえ、教育大綱と併せて今後の本町の教育行政の基本的な計画とするため、具体的な教育の方向性を示す計画を策定する。</p> <p>○小学校において外国語の授業研究を行うことでより一層の小中連携を進め、順次、他教科の連携を進めていく。</p> <p>○各学校においてトイレの洋式化・乾式化の改修工事を実施するための設計を行い学校トイレの環境改善に取り組む。</p> <p>○広陵西小学校における校舎増築棟の校内ネットワーク環境（Wi-Fi環境）の整備と全小中学校のICT教育環境の更なる充実を図るためにICT支援員を導入する。</p> <p>○広陵西小学校増築等工事を令和3年8月竣工に向け、遅延することのないように管理する。</p>	<p style="text-align: center;">A</p>

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策	
教育委員会活動	教育委員会の開催	○毎月開催する定例教育委員会での教育における諸問題の課題解決に向けた審議	A	A	○定例委員会を12回、臨時委員会を1回開催し、教育委員会に関わる規則や要綱等の整備、学力学習状況調査の分析結果の検討、後援名義の使用承認や人事案件の承認などを審議し、滞りなく教育行政を推進することができた。 ○コロナ禍における教育活動継続に向けた協議を行った。	○定例委員会を毎月開催し、審議を行うことで、滞りなく教育行政を推進することができている。	
	教育行政の推進	○総合教育会議の開催	A	A	○広陵町教育大綱に基づいた事業の実施、教育委員会各課の諸事業の報告や学校における問題等を基に町長部局と教育委員会事務局との連携協力による教育行政の推進を図る。	○教育大綱の策定に基づく教育行政が進められている。	
		○広陵町教育大綱の見直し	A		○平成29年3月策定の広陵町教育大綱の見直しを行い、時代の変化に対応した内容とする。	○時代に即した内容に見直すことができた。	
		○広陵町教育振基本興計画の策定	A		○本町における教育行政の基本的な計画とするため、具体的な教育の方向性を示す広陵町教育振興基本計画を策定する。	○具体的な教育方針や教育の方向性を示す計画を策定することができた。	
	幼稚園・こども園訪問及び学校訪問	○幼稚園5園、こども園1園、小中学校7校を対象とした訪問を年2回(春、秋)実施	-	-	B	○春・秋とも学校訪問は、コロナウイルス感染症の拡大状況に鑑み中止とした。	○学校・幼稚園を訪問することはできなかったが、本町教育現場の現状把握を行い、その上で、教育の振興に向けた協議・指導・助言を行っている。
	視察研修	○教育委員会活動における先進地視察	A	A	○近畿市町村教育委員会研修大会(兵庫県尼崎市)で、脳科学の知見を活かした教育についての研修会に参加。	○教育委員会研修大会で得た情報や取組内容を本町でも取り入れ実施推進しようと努めている。	
各種行事への参加	○入学(園)式、卒業(園)式、運動会・体育大会、町教育講演会、町民体育祭、文化祭、成人式等への参加	-	-	○新型コロナウイルス感染症の拡大状況から行事への参加は見合わせた。 ○町民体育祭等については、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策のため、中止した。ただし、学校(園)の運動会等は、規模を縮小する等感染症拡大防止対策を講じながら実施した。 ○教育委員会主催事業は未実施となったが、町教育行政の助言者として各方面への指導助言を行った。	○教育行政の充実・発展に向けて、教育現場の課題に対する改善に努めるとともに本町教育振興の理念に基づく人づくりを進めている。		

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
学校教育の充実	学校施設環境改善	○小中学校における教育環境向上の一環として、施設整備事業を実施	A	A	安全安心な学校施設のため ○昨今の生活環境の変化に伴うトイレ洋式化乾式化工事の設計実施（広陵東小学校・広陵中学校） ○広陵西小学校屋上防水工事設計実施	○子どもの教育環境を整えることで学校施設環境の向上を目指している。
		○広陵西小学校増築等工事の実施	A		○広陵西小学校増築等工事の遅延が生じないように進捗管理を行い、無事に令和3年8月に竣工することができた。	
		○GIGAスクール構想実施に向けた校内ネットワーク環境整備及び充実を図るためのICT支援員導入	A		○全小中学校校内ネットワーク環境（Wi-Fi環境）の整備とICT教育環境の更なる充実を図るためにICT支援員を導入する。	
	学習意欲の向上及び学習習慣の定着化	○教員の指導力及び資質の向上	A	A	○教育委員会主催の初任者研修において、教員としての心構えや服務、児童生徒理解、生徒指導等の講義及び町内の文化財の見学、授業参観による授業研究の方法や教材研究の方法について伝達・指導した。	○子どもの学習意欲を向上させるため、教える側の教員に対して、今日的な課題を町内の全ての教員を対象に実施している。
		○GIGAスクール構想推進委員会の設置	A		○GIGAスクール構想を推進するため、各校からエバンジェリストとして委員を参集し、各校における課題、情報共有、今後の取組について協議した。	○端末活用率、活用方法等について各校の事例を参考に、教員のスキル向上等を図る必要がある。
		○広陵放課後塾の実施	A		○小学校3年生の希望者を対象に基礎学力の定着や学習意欲の向上を図るため、2学期から毎週水曜日の放課後1時間、各小学校（5校）で学習支援を行った。 アンケート結果 ・学習したことがよくわかったと答えた児童 94% ・基礎学力を身に付けることに役立ったと答えた保護者 96%	○アンケート結果から、基礎学力の定着や学習意欲の向上につながっていると考えられる。
	学力・体力の向上	○児童生徒の学力向上	B	B	○定期的に広陵町学力向上プロジェクト協議会を開催し、全国及び町実施の学力調査の結果を分析し、本町の児童生徒の現状把握及び各学校の課題（学校間格差が大きい）解決に向けた学力向上への取組に努めている。	○調査結果による現状把握と分析から、学校間格差を是正する取組を各学校に発信し、学力向上及び体力の向上に努めている。
		○児童生徒の体力向上	B		○小中学校ともに目標指標を設定し、バランス良く体力向上につながるよう改善に向けて努めていく。	

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
学校教育の充実	食育の推進	○給食を中心とした食育の推進	A	A	○小、中学校ともに完全給食を実施し、成長期に必要な栄養を提供するとともに、献立表や給食だより等を通じて、食への関心・知識を深めている。 ○令和3年度については、広陵町産いちごを使った「いちごマフィン」を小・中学校で提供するなど給食で広陵町産や奈良県産の地場産物を使用することで、地域の農作物について知り、食への感謝の心を育んでいる。	○必要な栄養を摂取でき、食への興味・関心も高まっている。 ○地場産物を使用することで、地元への興味・関心がわき、生産者への感謝につながるよう取り組んでいる。
		○食物アレルギー対応	A		○食物アレルギーを有する児童生徒へ安全に給食を提供できるように、保護者、学校、教育委員会、給食センターと連携し、面談に基づいた個別の支援プランにより、給食を実施している。	○食物アレルギーを有する子どもも給食を食べることができ、安全な給食実施に努めている。
	特別支援教育の充実 【学校支援室】	○教育支援委員会の審議件数の増加に伴い、より丁寧な審議を行うため、就学期部会と学齢期部会を設置する。	A	A	○審議件数が多いことから、委員会を年3回の開催とした。委員会の前段階として、より丁寧な審議を行うため就学を対象とした就学期部会、就学後を対象とした学齢期部会を開催し、検討された内容を委員会で審議した。各部会で十分な検討を行っているため委員会が合理的に集中して審議することができた。	○教育支援委員会として、個別の支援が必要かどうかを検討し、子どもの学びの場に重点を置いて適切に行っている。
		○広陵町通級指導教室の運営	A	A	○広陵北小学校に2教室目の通級指導教室を開設し、3年目となる真美ヶ丘第二小学校と合わせて2教室体制で指導を行うことができることとなった。新型コロナウイルス感染症対策を行いながら、指導を行った。3月時点で2教室合わせて49名の児童が通級指導を受けた。	○今後、中学校において通級指導教室の開設を目指し、小中の切れ目ない支援を進めている。
		○課題を抱えている児童生徒への対応	A		○学校生活アドバイザーを各学校に巡回派遣し、支援を要する児童生徒への関わり方や保護者、教員へのアドバイスをいただき、児童生徒が安心して学校生活を送れるように支援した。	○課題を抱えている児童生徒一人一人のニーズにあった指導を展開するよう努めている。
	部活動補助金	○各部活動に係る費用全般の補助	A	A	○学校教育活動の一つとして中学校における部活動の全てに活動の一助となる補助をした。	○町内中学校における部活動に対して、様々な形で補助することで部活動の活性化につなげている。
		○奈良県内公式戦出場にかかるバス借上料を町が予算内で負担	A		○中体連主催事業の公式戦を中心にバスの借上料を負担し、活動への意欲につなげた。	
		○近畿・全国大会出場生徒及び引率教員の費用を補助	A		○大会参加補助金の基準に従い、近畿・全国大会に出場する生徒及び引率教員への旅費等を補助することで広陵町の名声及びスポーツ振興に寄与した。	

●学校支援室

前年度の成果と課題		本年度重点目標			具体的目標		総合評価	
<p>○夏季教育相談を含めた様々な教育相談の充実</p> <p>○就学援助の充実</p> <p>○いじめ防止に向けた体制の構築</p> <p>○不登校支援</p>		<p>○町内各小中学校への支援体制の強化を目的とした組織体制の構築</p> <p>○就学指導を中心とした教育相談及び課題を持つ子どもや保護者への支援の充実</p> <p>○準要保護家庭への就学援助の充実</p> <p>○広陵町いじめ防止対策推進条例及び広陵町いじめ防止基本方針に基づいた取組の推進</p> <p>○大和高田市教育委員会適応指導教室「かたらい教室」との連携推進</p>			<p>○各学校における生徒指導上の課題に対して、迅速かつ適切な支援・助言を進めるための組織体制を構築する。</p> <p>○特別な支援を必要とする子どもの就学に伴う夏季教育相談の充実と県から派遣されているスクールカウンセラーの活用及びスクールソーシャルワーカー、心の相談員等で課題を持つ子どもや保護者への適切な相談活動を充実させる。</p> <p>○町内各小中学校の準要保護家庭への就学援助の充実と新入学用品費の入学前支給の周知と定着化を図る。</p> <p>○広陵町におけるいじめ防止対策推進条例及び基本方針に基づき、いじめ問題連絡協議会等を開催する。関係機関との連携及びいじめの防止等に向けた効果的な取組を進める。</p> <p>○不登校支援として、「かたらい教室」への通室が可能な児童生徒の利用を積極的に進めていく。</p>		A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策	
教育相談活動の充実	夏季教育相談の実施	○特別な支援が必要と考えられる子どもを対象とした教育相談を就学前から中学3年生及びその保護者を対象として、校区の学校で実施する。		A	A	A	○7月27日(火)から8月4日(水)の間、小学校及び中学校を会場として実施した。申込相談件数は79件(前年比+14件)。校区で開催することで会場への移動の利便性を高めると共に、特に就学期に早期から学校と関わりを持つことが可能となった。	○夏季の教育相談について校区の学校での開催に変更した結果早期から学校と関わり、就学に対する具体的イメージを持ちやすくなった。

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)		
教育相談活動の充実	スクールカウンセリングカウンセラーの派遣	○奈良県教育委員会からの真美ヶ丘第一小学校、広陵中学校、真美ヶ丘中学校へのスクールカウンセラー配置  ○教育委員会臨床心理士を、小・中学校に派遣	A	A	A	○県派遣スクールカウンセラーは、小学校年間50時間、中学校年間105時間の派遣を行った。真美ヶ丘第一小学校では、延べ51件、広陵中学校では、延べ112件（うち校区内小学校12件）、真美ヶ丘中学校では、延べ89件（うち校区内小学校2件）の相談に対応した。  ○幼・小・中学校での巡回相談を実施した。延べ59件の相談に対応すると共に随時教職員等からの電話相談対応等を行った。	○カウンセリングマインドを持ったカウンセラーの配置によって、子どもだけでなく保護者もカウンセリングを受けることで中学校を中心に子育て等教育に関わる悩みの相談に幅広く対応できている。
	スクールソーシャルワーカーの派遣	○学校生活アドバイザーを小・中学校に派遣	A	A		○学校生活アドバイザーを週3～4回、小・中学校に派遣し、課題のある児童・生徒の行動観察や担任等に社会福祉的観点からの助言・指導・関係者間調整を行った。	○スクールソーシャルワーカーの新たな派遣やこれまでの心の相談員、まなびの相談員、子どもと親の相談員の派遣によって教員以外の立場から児童生徒、保護者が相談を受けることで様々な問題の解決につながっている。
	心の相談室の開室	○広陵中学校と真美ヶ丘中学校で相談室を開室し、各学校で月に1回臨床心理士を派遣	A	A		○延べ67件の相談に対応した。	
	まなび相談室の開室	○広陵中学校と真美ヶ丘中学校で相談室を開室し、各学校で月に1回臨床心理士を派遣	A	A		○延べ90件の相談に対応した。	
	子どもと親の相談員の配置	○町立5小学校に退職教員等を子どもと親の相談員として配置	A	A		○広陵東小学校は延べ174件、広陵西小学校は延べ220件、広陵北小学校は延べ181件、真美ヶ丘第一小学校は延べ216件、真美ヶ丘第二小学校は延べ216件の相談に対応した。	
	適応指導教室との連携	○大和高田市教育委員会との提携による、適応指導教室「かたらい教室」の利用	A	A		○令和3年度は8人が登録。面接相談37回、集団適応指導教室出席189回であった。不登校の児童・生徒本人は、かたらい教室に通えない場合もあるため、保護者、教員の相談先として活用できるよう進めていく。	○かたらい教室を有効かつ効果的に活用している。
就学援助の充実	準要保護家庭への就学援助	○各小中学校の準要保護家庭に対する就学援助の充実	A	A	A	○準要保護家庭への学用品、新入学児童生徒学用品、通学用品、修学旅行費、校外学習費、給食費の援助を実施した。 ＜小学校149名＞ 1年：24名 2年：22名 3年：32名 4年：30名 5年：17名 6年：24名 ＜中学校93名＞ 1年：29名 2年：20名 3年：44名	○準要保護家庭への手厚い援助により子どもの貧困対策の一助となっている。
		○新入学児童生徒学用品費の入学前支給の実施により就学援助の更なる充実	A				

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)		
いじめ防止対策の推進	各学校でのいじめの対応	○各学校におけるいじめアンケートの実施	A	A	A	○県からのいじめアンケート（6月実施）だけでなく、各学校で学期に1回程度のアンケートを実施し、いじめは絶対許さないという強い思いでいじめ防止を推進した。	○学校教育の今日的課題となっているいじめの対策について、「いじめは絶対許さない」という強い信念をもって対応している。	
		○各学校におけるいじめ防止基本方針に基づく取組の年間計画の作成及び学校いじめ防止対策委員会設置への助言	A					○11月にいじめ防止標語を町立小中学校児童生徒から募集するとともに、優秀作品等をクリアファイルに印刷し全児童生徒に配布し、いじめ予防の啓発を行った。
		○広陵町いじめ防止対策推進条例及び広陵町いじめ防止基本方針に基づいた取組の推進	A					○広陵町いじめ問題連絡協議会規則に基づき、第1回広陵町いじめ問題連絡協議会を9月に開催した。協議会では、本町はいじめ防止のための様々な意見や提言があり、本町はいじめ防止を推進するよう協議した。
不登校対策の推進	各学校での不登校対応	○スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、指導主事、適応指導教室等と連携した不登校対策体制の推進	B	B	B	○増加傾向にある不登校児童生徒対策として、「こころの相談室」や「まなび相談室」の利用促進と学校との連携を図った。加えて、指導主事等で重点的に学校への指導助言を行った。全国的にも増加傾向にあり、特に中学校での対策が急務である。 不登校の割合 R1 小学校 1.55% 中学校 2.07% R2 小学校 0.85% 中学校 3.87% R3 小学校 1.17% 中学校 7.85%	○学校と教委が共に対策を進めていくため、指導主事等による指導助言体制の強化、スクールカウンセラー及び相談員と学校との連携を強化していく必要がある。	
地域と学校との連携	コミュニティ・スクールの開設進展	○各学区毎のコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の開設	B	B	B	○全ての町立小学校、中学校区でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を開設することができた。今後は、各学区毎のコミュニティ・スクールについて周知及び理解を進めていく。	○町内全ての小、中学校区でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を開設できた。	

●生涯学習文化財課

前年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
<p>○生涯学習施策の充実</p> <p>○巢山古墳史跡整備事業</p> <p>○文化財保存施設の維持管理</p> <p>○文化財ガイド活動の支援</p>		<p>○「人と人」「人と地域」がつながり、支え合う生涯学習社会の構築を目指し、関係機関と連携しながら、活力あるまちづくりを進める。</p> <p>○巢山古墳史跡整備事業</p> <p>○指定文化財の維持管理、保守点検助成</p> <p>○文化財ガイドの会の活動支援</p>		<p>○多様な手法を用いて生涯学習施策における事業内容及び活動内容を発信することで、必要な情報が必要とする住民に行き渡るよう、積極的な情報の提供に努める。</p> <p>○十分な事業費を確保して、全体計画を進める。</p> <p>○指定文化財の維持管理、保守点検助成を継続する。</p> <p>○文化財ガイドの会の案内によって、町内のこどもへの普及啓発や観光客数を増加させる。</p>		B	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
地域ぐるみの子育てと教育	学校・地域パートナーシップ事業	○地域学校協働本部との連携・協働により、地域コーディネーターを始め、学校支援ボランティアによる学校活動を支援		B	B	<p>○コロナ禍において一定程度の行動制限があったものの、6年生の家庭科における授業支援や除草作業等の環境整備、登下校時の見守り等、子どもたちへの支援を実施した。</p> <p>○学校側の需要とボランティア側の供給可能な支援内容の乖離問題があることから、学校と地域の連携体制の確立が課題である。</p>	○学校と地域を繋ぐ役割を担う地域コーディネーターがキーマンとなるため、地域コーディネーターを対象にした研修等を検討する必要がある。
	青少年健全育成事業	○P T A指導者研修会の実施		B	B	○学校、家庭、地域が連携・協力しながら毎年実施しているP T A指導者研修会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。コロナ禍においても継続的に実施できる方策の検討が課題である。	○縮小開催によって活動を再開した事業がある一方、集合型を前提とした研修は中止となったことから、引き続きオンライン研修等の取組を検討する必要がある。
		○関係機関と連携した町内巡視の実施		B		○毎月第3金曜日の定例巡視は縮小開催により実施したものの、小学校始業式・終業式に合わせた校門立哨では、少年補導員全員参加にて実施した。夏から秋にかけての地域の祭りが、新型コロナウイルス感染症の影響によって相次いで中止となったことから、夏期の夜間巡視についても感染防止の観点から縮小開催とした。	



評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
生涯学習の 発展強化	社会教育委員活動	○広く社会教育を通し、活力あるまちづくりを推進	B	B	○多様な手法を用いて生涯学習施策における事業内容及び活動内容を発信することで、必要な情報が必要とする住民に行き渡るよう、積極的な情報の提供に努める。	○社会教育委員の3分の2を占める4人が初就任であることから、新しい視点を加えた社会教育の振興を図ること。
		○世代間交流を目的として、地域の研究調査を実施	B		○世代間交流事業については、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。	
	文化祭	○文化的創造意識の高揚と、文化芸術活動の振興のため、文化の日を中心に文化祭の開催を検討	-	-	○例年開催している文化祭（文化展覧会、中央公民館活動発表会、参加体験型教室、文化歴史講演会・発掘速報展及び中学生絵画展）は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した。コロナ禍においても継続的に実施できる方策の検討が課題である。	○町の文化活動の中核を担う事業として、地域に根付いている。 ○徹底した感染症対策の実施や規模を縮小する形での開催を検討すること。
	成人式	○20歳を迎えた新成人を祝うため、成人の日に成人式を開催	A	A	A	○新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、中学校区別にて2部構成で開催。また、感染拡大につき、参加を自粛された方や保護者に向けた動画配信を実施した。 ○新成人で構成する成人式実行委員会が中心となって、式典を進行した。 ・対象者 432人（町内 399人・町外 33人） ・参加者 322人（対象者の74.5%） 内訳 ・広陵中学校区 158人（対象者の74.2%） ・真美ヶ丘中学校区 164人（対象者の74.9%） ○昨年度、2部構成での実施により明らかになった時間的な諸課題については、式典開始時刻を調整した結果、一定程度解消した。 ○成人式の参加者を対象に、成人式を通しての気づきなど、オンラインアンケートを実施した。
	公民館活動 【中央公民館】	○地域における学習需要に応える社会教育施設として、人づくり・地域づくりを推進	A	A	○感染症拡大防止対策として、各種教室、講座の開催規模を縮小して開催した。 ○公民館育成クラブとして、58団体・672人が活動した。	○受講者の高齢化・固定化に対応する講座等の検討が必要である。

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
生涯学習の発展強化	施設利用 【中央公民館】	○主催事業・育成クラブの実施のほか、公共的な利用への貸館事業を実施	A	A	A	<p>○中央公民館の施設利用者 2,379件延べ21,662人</p> <p>○感染症拡大防止対策として使用制限を定めるとともに、主催事業の開催規模を縮小した。</p> <p>○主催教室事業 ・書道、俳画、ストリートピアノ等 22教室 参加者数 200人 ・子ども対象事業（子ども絵画等） 12教室 参加者数 162人 ・女性学級（みそ造り） 1教室 参加者数 37人</p>	○施設の老朽化に伴い、改修等の検討が必要である。
家庭教育	家庭教育学級	○町内の各幼稚園、こども園、小・中学校において、それぞれ年間3回の家庭教育学級を実施	B	B	B	○各幼稚園、こども園、小・中学校における家庭教育学級は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から中止した一方、広陵町人権教育推進協議会との共催により、家庭教育学級を再開し、人権セミナーとしてアンガーマネジメント講座を開催した。	○PTA会員の負担にならないよう、場所や時間帯に配慮した形式での開催を引き続き検討する必要がある。
人権教育	人権教育の推進	○人権尊重の理念に対する理解と知識習得のため、関係団体と連携して、多様な学習機会を提供し、人権教育・啓発施策を推進 ○新型コロナウイルス感染症に伴う感染症差別について周知	B	B	B	<p>○広陵町人権教育推進協議会として、例年6月に開催している総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面決議とした。</p> <p>○例年3回実施している人権セミナーについては、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、1回のみの実施（家庭教育学級との合同開催）とした。約80人が参加し、アンガーマネジメントについて、学びを深めた。</p> <p>○7月の「差別をなくす強調月間」に合わせて、7月号広報にチラシ「つながり」の挟み込みを行った。特集として「コロナ差別」についての記事を掲載した。</p> <p>○全国人権教育研究協議会、奈良県人権教育推進協議会及び北葛城郡人権教育推進連絡協議会など、各種関係団体との情報共有や連携を行った。</p>	○新型コロナウイルス感染者等への不当な差別や町内における差別事象の発生から、社会における人権意識の脆弱さが露呈された。引き続き啓発担当と連携し、SNS等を利用した周知活動を推進すること。

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価 結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
青少年健全育成	青少年健全育成のための様々な活動	○関係機関等と連携し、地域社会の中で青少年の健全育成を推進	B	B	B	○広陵町青少年健全育成協議会として、例年7月に開催している総会は、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面決議とした。 ○町内の祭り等が中止となったため、それに伴う夜間巡視は中止としたが、小学校通学路での定例巡視及び立哨等については実施した。 ○例年、奈良県と実施している「青少年の非行・被害防止運動」に伴う合同立入・巡回啓発活動を11月に実施した。	○青少年健全育成に係る活動をより多くの住民に知ってもらい、地域で子ども達を見守る意識を向上させるため、SNS等を利用した情報発信を充実させること。
	史跡整備事業	○巢山古墳史跡整備事業	A	A		○巢山古墳第22次発掘調査で南西側外堤35㎡を調査し、史跡整備工事で浚渫土運搬・残土処分2,010㎡、既存築堤撤去一式、護岸整備14.6m、護岸天端盛土1,293㎡を行った。	○事業費確保に努め、計画を進めること。
文化財保存と活用	発掘届出に伴う遺跡の調査	○周知の埋蔵文化財包蔵地(遺跡)内の開発行為に伴い提出された発掘届出、発掘通知に対する調査	A	A		○民間開発の発掘届出及び公共の発掘通知92件(発掘調査12件、工事立会23件、慎重工事57件)に対し、発掘調査(試掘)9件、工事立会17件を行った。	○発掘調査(試掘)、工事立会件数を増やし、遺跡内容の情報収集に努めること。
	史跡維持管理	○史跡等の環境整備(5か所)、収蔵庫管理(1か所)	A	A		○巢山古墳、牧野古墳、乙女山古墳、三吉石塚古墳、石ヶ谷古墳の除草、剪定業務を広陵古文化会とシルバー人材センターに、与楽寺収蔵庫管理業務を広瀬区に委託した。	○当初予定の除草、剪定回数を確保した。 引き続き、史跡等の維持管理に努めること。
	文化財保存助成	○指定文化財防災設備保守点検 ○広陵町文化遺産総合活用推進事業	B	B	A	○百濟寺及び教行寺の防災設備保守点検を助成した。 ○文化庁補助金で箸尾地区櫛玉比女命神社禮大祭の保存伝承のため、弁財天区山車を修理した。	○県補助金を活用し、引き続き補助事業を継続し、文化財保存を進めること。
	普及啓発事業	○文化財ガイドの会の活動支援	-	-		○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から基本的にガイド申込みを中止したため、見学者案内件数・人数は3件に止まった。 また、春、秋の牧野古墳定点ガイドや各イベントでのガイドも中止した。 ガイド技術を向上させ、観光客の再訪問を図る。	○申込みによる案内人数、定点ガイドによる案内人数の両方が減少した。馬見丘陵公園で文化財ガイドを実施し、再訪を促すこと。
		○小学生を対象とした古代体験学習の充実	-			○新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、かぐや姫まつり及び文化祭での体験学習が中止となった。	○古代体験を通じて郷土愛を醸成すること。
	施設管理	○歴史資料館の条件整理と事業推進	-	-		○単独館の基本設計書が完成し、整備検討委員会の答申が出されたが、実施設計に至っていない。	○公共施設総合管理計画との整合、財源及び人材確保を図ること。

●スポーツ振興課

前年度の 成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
○生涯スポーツの情報と機会の提供  ○スポーツ推進委員やスポーツ協会との連携・協力の伴うスポーツの振興		○生涯スポーツの情報と機会の提供  ○スポーツ推進委員やスポーツ協会との連携・協力の伴うスポーツの振興		○生涯スポーツに対する住民の意識高揚を目標に、健康づくりに必要な情報提供と施設利用の拡大を図り、住民主体のクラブである総合型地域スポーツクラブの活動が軌道に乗るよう支援を行う。  ○軽スポーツなど新種目への設備を充実させ、ミニ体育館利用者のマナー向上、施設の維持、管理、改修を行う。 ○町民体育祭においては、参加しやすい種目内容の導入を考える。		A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
社会教育の充実	施設の利用	○体育館の設備充実・維持・管理・改修		A	A	○各施設の利用者数 中央体育館 4,673件 43,647人 ミニ体育館(4館) 5,665件 64,476人 運動場(4箇所) 895件 24,121人 テニスコート(4箇所) 2,674件 16,624人 ○施設の大規模改修等 ①真美ヶ丘テニスコート砂入り人工芝 縁縁改修工事(3面)	○各体育施設について安全性の確保や利用促進を見据えた適正な維持管理・改修に努め、管理運営体制の充実を進め、有効活用を図るよう努めている。
	町民体育祭	○町民が参加しやすい種目内容の導入		B	B	○過去4年、町民体育祭は天候の影響や新型コロナウイルス感染拡大防止の理由から中止の結果になっている。このような経緯のことから、天候等にあまり左右されない時期として、11月の第3週の日曜に実施することを決定した。併せて町民が参加しやすい種目内容の導入を考えている。	○町民が参加しやすい内容・種目に変更し、体育祭の実施に向けて検討している。
	使用料の見直し	○体育施設使用料の適正化に努める		A	A	○効率的な施設運営や事務改善を図りながら、コスト削減と受益者負担の軽減に努めていく必要性を踏まえながら、持続可能な財政運営を確保していくため、「広陵町体育施設使用料適正化検討委員会」を設置し、検証することにより、適切な使用料を設定する中で施設利用者に対し受益者負担を求める。 学識経験者2名、町内関係団体4名、施設利用者2名の計8名の委員で構成。5回の委員会を開催した。	○適切な使用料の制定に向けて検討を続けている。

●図書館

前年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
<p>○生涯学習の拠点としての機能強化及び利用促進。</p> <p>○安全安心な施設環境の整備</p>		<p>○町民の教養、調査研究、レクリエーション等に資する事を目的に、新鮮で有効な資料を収集し、生涯学習拠点としての機能強化及び利用促進に努める。</p> <p>○コロナ禍であっても安心して利用してもらえる環境を整える。</p>		<p>○町民のニーズを把握し、新鮮な図書資料を提供する。</p> <p>○リクエスト資料を確実に提供する。</p> <p>○展示やおすすめ本など読書推進につながるよう、積極的に情報提供する</p> <p>○本や施設の消毒や換気、密にならない席の設置等を行うことで、安心して図書館を利用していただき、利用者数を以前に戻す。</p>		A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
図書館活動の充実	図書の収集・保存・提供	○新規出版物の把握に努め、ブックリストの他、本の展示会、出版社の巡回、見計らいなどでの本の選書及び利用者への新鮮な図書の提供		A	A	○年間6,000冊の図書を購入し、R3年度末時点で蔵書冊数305,452冊。情報が古くなった図書や破損のひどい児童書の入替も行い、常に新しい情報の提供に努めた。図書館の根幹となる業務なので、今後も継続する。	○新刊本の充実に取り組んでいる。また、町民サービスの観点から町民のリクエストを積極的に取り入れ、リクエストに確実に応えている。
		○利用者の希望する図書をリクエストサービスにて提供		A		○リクエスト数はH29年度1,023件→H30年度1,002件→R元年度921件→R2年度979件→R3年度1,047件と増加している。 利用者ニーズは多岐にわたるため、全国の図書館に相互貸借を依頼することが増えている。求められた資料はほぼ全て提供できている。配送料を抑えられる県立図書館の仕組みを利用することが多いが、迅速さは欠くため、利用者への理解を求める必要もでてきている。	
	読書推進 図書館行事開催	○テーマ展示や読書マラソンを開催し、貸出の増加につなげるとともに普段あまり目に付かないジャンルの本を手にとってもらい、読書の幅を広げる。		A	A	○貸出冊数はR元年度は417,910冊、R2年度は291,201冊、R3年度は385,818冊であり、新型コロナウイルスの影響により減少していた利用が徐々に元に戻りつつある。引き続きコロナ対策を行いながら安心して貸出していただけるよう努めたい。 展示本は一月ごとにテーマを変えて行い、よく利用されていた。利用者の興味を引くテーマで今後も継続する。読書マラソンも例年より多い参加があり、利用促進につながった。	

評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標	自己評価結果 (A・B・C)			成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析)及び改善方策
図書館活動の充実		○電子図書の利用を促進し、コロナ禍において非来館でも読書できる環境を整える。	B	B		○新規利用者に引き続き利用していただけるよう興味をひくトップ画面を短期間のスパンで更新していく必要がある。また、コンテンツの増加も目指す。 R3年度末コンテンツ数9,737点。 雑誌の電子版の導入を試行した。紙ベースの雑誌の休廃刊が増えていることから、利用状況を見ながら電子版に徐々に移行していく。	
	読書推進 図書館行事開催	○図書館資料を利用して、専門講師による講座や、親子向けの絵本講座、映画会・読書会などを開催し、図書館利用と読書活動を推進する。	A	A	A	○図書館講座(年5回)・読書会(月1回)・映画会(月1回)・本のテーマ展示(月1回)・赤ちゃんから絵本を楽しもう(月2回)・おはなし会(毎週1回)・ブックリサイクル(年1回)・一日図書館員体験・読書通帳発行・読書マラソン大会・本の福袋などの行事を開催した。  ○新型コロナウイルス感染症の影響があり、規模を縮小したり、定員を少人数にしたり、手順をスクリーンに映し出すことで距離をとる方法を試したり工夫をこらしながら講座を開催した。赤ちゃんから絵本を楽しもうは時間を延長して参加者をばらけるような対策を行いながら開催した。新規の行事は実施できていない。	○様々な図書館の行事を開催するとともに図書館利用の拡充と読書活動を推進している。
施設環境の整備	利用者を使いやすい施設の整備	○必要な修繕やコロナ対策を行い、利用者が安心して使える環境を提供する。	B	B	B	○快適で安全に利用しやすい施設となるよう継続して整備を行っている。令和3年度に行った主な内容は以下のとおりである。 ・利用者トイレや外部通路のタイル張替 ・玄関監視カメラの改修 ・雨漏りの調査 雨漏りの原因が追及できなかつたため、引き続き荒天時に調査が必要。 ○コロナ禍において、書架や書籍の消毒、席の利用、雑誌新聞の閲覧、視聴覚室の利用等安全安心して利用できるよう、環境整備に努めた。	○利用しやすい施設を目指して整備を進めている。

●給食センター協議会

前年度の成果と課題		本年度重点目標		具体的目標		総合評価	
○協議会及び運営委員会の開催を行い、円滑な中学校給食センターの稼働並びに安全安心な給食の提供を行った。		○円滑な中学校給食の実施及び給食センター「スマイル」の運営 ○給食センターの稼働に伴う運営委員会等の開催をはじめ、円滑な中学校給食に向けた様々な取組と安全安心な給食の提供 ○新型コロナウイルス感染症等により新たな衛生管理、運営管理を行う安全安心な給食の提供 ○残食を減らし、よりおいしい給食となる献立編成や食育推進を行っていく。		○協議会で、中学校給食施設の管理や運営に関する事項について審議を行う。 ○運営委員会及び部会で、中学校給食の円滑な運営について必要な審議を行う。 ○施設全体の消毒を実施し、栄養バランスを考えた安全安心な給食を提供する。 ○昨年度は、教職員にもアンケート調査を実施し、数多くの意見を聴取した。この結果を踏まえ残食率の減少に反映させる。		A	
評価項目分野	具体的目標 (評価小項目)	具体的方策・評価指標		自己評価結果 (A・B・C)		成果と課題 (評価結果の分析)	関係者評価 (結果・分析) 及び改善方策
中学校給食の充実	協議会委員会の開催	○中学校給食施設の管理や運営に関する事項及びその他中学校給食について必要な事項について審議を行う。		A	A	○会議を2回開催し、予算・決算及び規約、規定に基づき施設・設備の管理内容を精査し運営実施等を審議した。	○協議会委員会を開催し審議を行うことで滞りなく協議会運営を推進することができている。
	運営委員会及び部会の開催	○中学校給食の円滑な運営について必要な審議を行う。		A	A	○運営委員会を2回、献立編成部会5回、物資納入者選定部会6回、アレルギー対応部会1回を開催し、献立編成、物資納入及びアレルギー対応について審議した。	○運営委員会、部会を開催し審議を行うことで、給食の円滑な運営を推進している。
	安全安心な給食提供	○危機管理マニュアルに従い、センター、学校、教育委員会と連携を図る。		A	A	○事故防止のため、各関係機関と連携を図り未然防止対策に努め、引き続き、新型コロナウイルス感染症防止のための衛生管理に努めた。 (調理稼働日数：169日 合計調理数：556,685食)	○各関係機関と連携を図り安全安心な給食提供の推進に努めている。
	残食の抑制及び対策	○各学校別の残食率等の集計、給食時の視察、献立編成等を行い、残食率を抑制する。 ○広陵中学校において、生徒会の生徒による一部物資の選定を開催した。		A	A	○各中学校の学年別残食率の集計や給食時の視察を実施した上、献立や傾向等の分析を行い、対策や改善を図った。 ○栄養教諭及び栄養職員が中学校に出向き、生徒を対象とした食育等の講演の実施 ○生徒への給食の関心・興味を高められた。また実際に選考した物資を給食で提供した。	○各学校と密な連携を図り、残食の原因等の分析を行っている。